

## 【令和元年年度第1回伊吹山を守る自然再生協議会】

### 議事録

■日 時 令和元年7月19日（金）午後2時30分～午後4時40分

■会 場 米原市役所伊吹庁舎2AB会議室

■出席者 出席：21名（うち代理出席3名）

伊吹山もりびとの会（西澤）、上野自治会（高橋兵）、伊吹山観光振興会（清水）、ユウスゲと貴重植物を守り育てる会（高橋滝）、米原観光協会（日向）、滋賀鉱産（代理：柏、豊田）、近江鉱業（澤田）、環境省近畿地方環境事務所自然環境整備課（金治）、岐阜県環境企画課（代理：大島）、米原市環境保全課（須藤）、米原市林務課（林）、米原市商工観光課（川瀬）、米原市山東伊吹地域協働課（大橋）、滋賀県琵琶湖環境部（高木）、滋賀県自然環境保全課（安田）、滋賀県湖北環境事務所（川崎）、野間、須藤、嵯峨、柴田

欠席：11名

伊吹山ネイチャーネットワーク（筒井）、山頂山小屋組合（松井）、日本自動車道（石井）、文化庁文化財部記念物課（田中）、岐阜県揖斐県事務所環境課（荻巣）、揖斐川町観光文化戦略課（野原）、関ヶ原町地域振興課（高木）、長浜市都市計画課（内藤）、米原市歴史文化財保護課（桂田）、滋賀県教育委員会文化財保護課（澤本）、高柳

敬省略

■議事進行 会長：高木（滋賀県琵琶湖環境部次長）

☆凡例 委員意見：○ 事務局意見：● 議長（会長）指導：◆

### ■議事要旨

#### 協議事項

##### （1）日本山岳遺産への登録について

- ・日本山岳遺産基金が運営・支援している日本山岳遺産への認定申請について事務局より説明があり、認定申請することとされた。

#### 報告事項

##### （1）山頂植生防護柵の状況について

- ・山頂お花畑の植生防護柵の破損状況および今後の改修計画について、事務局より説明がされた。

##### （2）平成30年度決算報告について

- ・平成30年度伊吹山入山協力金の決算について、事務局より説明された。

##### （3）令和元年度予算報告について

- ・令和元年度伊吹山入山協力金事業の事業計画および入山協力金部会で承認された補正予算の内容について、事務局より説明された。

#### (4) 各団体保護活動について

- ・伊吹山もりびとの会より説明があった。

#### (5) 伊吹山ニホンジカ捕獲事業 H30 実績報告・R 元 計画について

- ・伊吹山周辺におけるニホンジカの捕獲状況について、事務局（滋賀県および米原市）より説明された。

#### (6) 採掘跡地緑化事業 H30 実績報告・R 元計画について

- ・伊吹山インフォメーションセンターが4月14日に竣工されたこと、および現在の利用状況について、米原市山東伊吹地域協働課および上野区より報告された。

#### その他

- ・特になし

### ■議事録

#### 協議事項

##### (1) 日本山岳遺産への登録について

○助成金額が250万円とあるが、「総額」であるので団体数によって金額がかなり少額になるのでは。

- HP等で調べると、昨年度は4団体が認定されており、助成金額は1団体あたり100万円に届かなかった模様。申請される団体数は予測できないが、取り組んでいきたい。

(採決\_\_賛成多数により承認)

#### 報告事項

##### (1) 山頂植生防護柵の状況について

○網の張り替えについて説明があったが、当面の対応と考えてよいか。支柱の強靱化など先を見据えて対応していかないと、今後も後手後手の対応となってしまうのではないか。もう一点、修繕を行った後、定期的なメンテナンスが必要と考えるが、これまでの反省も踏まえて、今後の維持管理はどのように考えているのか。

- 支柱についてはAF規格に準拠したものに順次交換しているが、雪の重みや強風で年間10cm程度沈下することが分かったため、沈下する前提でメンテナンスを考えていかないといけないと考えている。現在、植生柵の修繕には市直営あるいは上野区への委託で行っているが、あくまでも一過性の対応と考えており、恒久的な対応について関係者と協議を始めたところ。例えば、現在の防護柵の外側に金属のような頑強なネットを設置するなど、今後有効な柵について検討していきたい。

○入山協力金という貴重な財源を活用していることもあり、学識者の意見も聞きながら進めていただきたい。

(2) 平成30年度決算報告について

(3) 令和元年度予算報告について

○平成30年度の入山協力金について、登山口の収受員と協力金、山頂の協力金箱それぞれの収受割合はどのようになっているのか。

○受託している収受業務の状況から推測すると、登山口の協力金箱は概ね登山者の4割程度が協力いただいております、収受員を配置すると80%程度協力いただいております。山頂はあまり注視している状況ではないが、天候により左右される。

○協力金箱が置いてあるだけなのに4割の方が協力いただいております、これまでの協議会の取組の成果と考えている。しかし、登山者と比較するとドライブウェイを利用する観光客が圧倒的に多数であり、期間限定や日本ドライブウェイ(株)の協力もいただきながら山頂でも収受する体制を整えてはどうか。もう一点は、現在米原市直営で柵の補修にご尽力いただいているが、大変な労力であり、持続的な体制を検討する必要がある。

●現在の市直営での体制が持続的でないことは認識しており、これまでも協議会の議論としてレンジャーの養成・配置が議論されてきた。今年度の事業計画で、夏場にレンジャーを配置・巡回する予定をしていたが、今年度はたちまち職員が行うこととしたところ。協議会として従事者に謝礼を支払うことはできても、レンジャーとして雇用することは困難。今後、検討していきたい。

○雇用が難しいのであれば、何らかの代替的な方法で学生等に從事してもらうことができればと思う。山頂での協力金収入の向上策として、周知方法の改善など観光に来られる前に、協力金制度をお知らせする必要があると思う。

○山頂の柵は、支柱を5本に1本程度はコンクリートで固めるなどの強靱な構造が必要。山頂での土木工事は非常に難しいのは理解しているが、伊吹山ドライブウェイさんの協力も得ながら協力金収入を向上していかないと、なかなか維持は難しい。

●山頂トイレの協力金箱のところに入山協力金を説明する看板があるが、今年度、協力金の用途をわかりやすく説明するような内容に変えていきたい。また、柵の修繕には、上野区さんにも熱心に手伝っていただきながら作業を行っている。シカに諦めてもらうには根気強く修繕を続けていくことが重要であり、粘り強く取り組んでいく。また将来の形は、高柳委員等学識者のアドバイスを得ながら、試行錯誤を繰り返してより良いものを作り上げていきたい。

○伊吹山を守る基金は、必要があれば基金を取り崩して執行するという理解でよいか。また、啓発・収受事業で作成しているパンフレットを見せてほしい。また、米原市はモンベルとも協定を結ばれているので、登山者がルールを守って利用してもらえるような観光啓発にどのように取り組んでいくのか教えてほしい。

- 市役所の中で「登山」をどこの部署が所管するのかあいまいになっていたが、モンベルとの提携を機に、環境保全やお客サービス面では環境保全課が、伊吹山への誘客は商工観光課が所管している。入山協力金のお礼に配布しているパンフレットについても、かつて米原観光協会で作成していたものを関係者で細かく校正いただき、最新の情報を提供している。今年はゴールデンウィーク中にパンフレットが無くなってしまったので追加発注で事なきを得た。今後はストックをもって対応していきたい。
- 協力金の成果をPRする広報が弱い。広報まいばらにコーナーを設けるなど、協力者に実感を持ってもらえるような取組が必要。
- 協力金箱があることに気付かない。
- 山頂トイレの協力金案内板をわかりやすいものに交換できるよう県と調整したい。
- 伊吹山に関する問合せ窓口が一本化されていないので、たらいまわしにされるケースがある。組織の見直しも検討すべき。
- 今年度の広報まいばらの掲載案件は既に決まっているので、次年度に向けて働きかけたい。HPを立ち上げ、最新情報をスマートフォン等で検索できるようなシステムを構築したいが、今年度は植生防護柵の修繕に労力がかかり現在作業がストップしている。最終的には、「伊吹山」と入力したら簡単に最新情報が提供できるような仕組みを考えるとともに、既存の媒体に伊吹山の情報を組み込んでいくことも考えたい。
- 今後は、HPで情報を一元管理していくということか。
- HPで管理したいが、市のシステムと連携させるとストレスが大きいので、母体は別でつくらないといけないと思う。
- インスタグラムなど、女性をターゲットにした取組も重要。例えば、伊吹山から琵琶湖を望む「インスタ映え」するロケーションなど、戦略的に伊吹山の情報発信を行ってほしい。

#### (4) 各団体保護活動について

(伊吹山もりびとの会による活動報告)

(特に意見等なし)

- ユウスゲと貴重植物を守り育てる会では、3合目の保全活動を行っている。3月の終わりからカタクリの防護柵を、4月初めから3合目の防護柵のネット上げを、上野区の有志の方の協力もいただき実施した。その後週に一回ネットの点検を行い、草刈りなどの作業を続けている。併せて、伊吹山の魅力発信を目的に、今年度から毎月植物観察会を実施している。特に6月の観察会は市外も含め16名の方に参加いただき、ネットの中のユウスゲやササユリを観察いただくとともに、ネットの内外の比較から食害の現状を知

っていただいた。直近では、米原市のご支援もいただき、7月の海の日にユウスゲ祭りを開催した。継続していくことが重要なので、10月まで引き続き取り組んでいきたい。

- 私からも一点報告したい。6月の調査で、外来種であるハルサキヤマガラシの生息場所がドライブウェイ沿いに限られ、山頂一帯や南斜面の黄色い花はイブキガラシ等の在来種であることがわかった。シカの食害の後にも在来種が回復しているため当面シカの駆除等の対応は必要ないかもしれないが、ハルサキヤマガラシは山頂駐車場横まで生息しており、これ以上上部まで生息させないように、来年度以降計画的に駆除作業等対応を考えていきたい。
- 3合目にも西洋ヤマガラシらしきものがあるが、早期に駆除作業を行ったが、中腹あたり（6合目から8合目）にイブキガラシが一面黄色い花をつける。これは今までなかった現象。これまで多様な植物が生息していたが、シカの食害で裸地化したところに繁殖力の強いイブキガラシが一気に広範に生息したと考えられる。この現象を植生の遷移の過程と見るのか、何らかの対応が必要なのかを協議会で検討すべきと考えている。
- 他にもコクサギが生息域を広げている。一度現地を確認してほしい。
- コクサギはここ2、3年で急激に増えた。体質によってはかぶれるので心配。

#### （5）伊吹山ニホンジカ捕獲事業について（H29実績報告・H30実施計画）

（滋賀県自然環境保全課および米原市林務課）

- 県事業の交付金の予算額は。
- 昨年度の予算額は650万円程度と記憶している。今年度は850万円程度。
- 米原市事業の予算額は。
- 平成30年度は200万円の予算に対し、執行額は180万円程度と記憶している。今年度は県予算（地域ぐるみ捕獲推進事業）が確保できなかったため、0。
- それぞれの自治体で行っている事業であり、予算の色も違うことは理解しているが、市と県が協力して事業を進めてほしい。
- 市としても、地域とともに捕獲事業を進めている。今年度予算を確保できなかったが、次年度以降も要望し捕獲圧を強めていきたい。
- 県全体で捕獲事業を進めており、予算確保は厳しいところではあるが、県事業で行う高標高域での銃猟から逃れたシカを、市において麓で捕獲を進めるなど協力してやっていきたい。
- 南斜面では安定して檻で捕獲が進んでいるが、北側斜面や東側（岐阜県側）で降りてきたシカを大量に捕獲できれば有効と思われるので、ここ数年毎年申し上げているが、ぜひ北側の麓や岐阜県側でもわなによる捕獲を進めてほしい。
- 捕獲したシカの処分はどうしているのか。

- 基本的には埋設している。
- 今年から焼却処分している。ジビエ活用はない。
- 県事業について、安全管理と適正処理に努めてほしい。また、希少な動物が同じ地区に生息しているので、希少種への配慮もお願いしたい。

(6) 採掘跡地緑化事業H30実績報告・R元計画について

(滋賀鉱産株式会社)

- 平成30年度の緑化事業に係る経費はどれぐらいか。
- 吹付作業は自社で実施しており、経費としては種の購入費用約400万円。
- 参考までに、平成30年度の採掘量は。
- 約110万トン。
- 現在の採掘量で、ベンチカットの水平断面がどれぐらい下がっていくのか。
- 10m幅で約2年から3年かけて掘削している。ちなみに、今年度の掘削量は概ね昨年度と同量で110万トン程度を予定している。
- 緑化を行っていただいているが、遠目から見るとなかなか根付いていないように感じる。先日、野間先生が現地を確認されたとのことだが、どのような所見を持たれたか。
- 2010年頃に現地を確認したときに比べ、1年目の生育としては、ヨモギの緑化は良好に生育しているとの印象。ただし、他の種子は全く生えていないので無駄になっていると感じた。よって、まずは成績の良いヨモギのみで緑化を行う方がいいと思う。昨年度の緑化に使ったヨモギは全て地元産の種子か。
- 昨年度は発注時期が遅かったため、一部(1kg未満)しか確保できていない。今年度は28kg(緑化面積で3,000㎡程度)ほど確保している。
- 何とか全量(緑化計画面積:5,000㎡)確保できないか。前回の協定では地元産の種子を用いた緑化を行っていくとのことであり、何とか実現できそうなところまで来ている。先進事例になると思われるので、是非とも宣伝いただきながら、産業として成立できるようになれば大きな意味を持つと思う。
- 採取したものは何に使われているのか。
- 主に骨材。生コンの原料。
- 以前住友大阪セメントが使用していたベルトコンベアは今も稼働しているのか。
- 現在も稼働している。採石をベルトコンベアでプラントまで運んで、水洗い、加工を行っている。
- 以前の住友大阪セメントの工場は閉鎖されているのか。
- 工場跡地は滋賀鉱産の所有でもない。
- 協定の覚書では緑化事業の結果を報告することとされているが、受けるのは県のどこの

部局か。

- 自然環境保全課で報告を受けている。
- 報告はいつごろ行われているのか。
- 例年 5 月末をめどに報告をいただく。本協議会の 1 回目の開催が例年 6 月頃なので、協議会の中でも事業者より報告いただいている。

その他

- 竹生島のタブノキ林もカワウの被害で枯れかけていたが、対策が功を奏し少し回復傾向にある。まだまだ以前の状態には戻っておらず、今後も対策が必要。長浜市では、タブノキ林の再生などにふるさと納税制度を活用している。情報提供させていただくのでご協力をお願いしたい。
- 午前中の入山協力金部会でも議論したが、伊吹山では、毎年かっとび伊吹が開催され、1,200~1,300 人が参加されている。これに当たり、主催者である実行委員会に、入山協力金を参加費とともに徴収するようお願いしているが、一向に話が進まない。現在の参加者のうち、入山協力金に協力いただいている方は約 4 割。開催後は非常に登山道が荒れており、今後も継続して開催することを疑問視する意見もあった。毎年担当者には伝えているが、当協議会としても申し入れしてはどうか。
- この件については、昨年度、かっとび伊吹の案内に入山協力金への協力依頼チラシを配布し、協力を求めたところ。あくまでも協力金であり、参加費と併せて強制的に徴収することはできないため、そのような対応をとったもの。自然環境の保全という意味での意見としてはおっしゃるとおりだが、別の視点から開催する必要があるとする意見もある。今後も市の内部で協議していきたい。
- 自然への負荷という意味では、非常にダメージが大きい。狭い登山道の中で競争するので、前の人を抜くために登山道以外のところを踏みつける。千人以上の人がある。通常の登山利用よりはるかにダメージが大きい。入山協力金の依頼だけでなく、ダメージの大きさをわかりやすく伝える必要があり、工夫してほしい。
- ◆強制的に徴収するのは難しいと思われるが、広報の方法や当日の入山協力金箱の置き場所など、協力いただけるような方法を市の内部で調整すること。
- 工法の仕方などについて、担当部局とも調整したい。
- 三合目のホテルやゴンドラの件について前回も質問したが、まだ平行線という理解でよいか。
- 法人が存在しているのかも含めて、もう少し調べたい。
- ホテルとゴンドラは所有者が別？
- 同じだと思われるが、実態がよくわからない。
- 経年劣化が進んでおり、今後の対応について県と市が連携して方向性を示してほしい。

以上